

平成29年度 科学研究費助成事業（特別推進研究）  
研究進捗評価 現地調査報告書

課題番号	16H06283	研究期間	平成28年度～平成32年度
研究課題名	言語と利他性の霊長類的基盤		
研究代表者名 (所属・職)	松沢 哲郎 (京都大学・高等研究院・特別教授)		

評価コメント
<p>本研究は、言語と利他性の観点から人間の本質に迫る研究である。野外観察法（比較追跡観察法）と比較認知科学の実験研究法（参与観察法）を併用して、チンパンジー、ボノボ、オランウータンの類人猿間の比較を行うとともに、人間の子ども（乳幼児）とも比較対照して類人猿からヒトへの進化過程を解明しようとしている点が特に注目できる。</p> <p>上記二つの方法の併用により、言語（象徴機能）と利他性（社会性）の発生と進化過程について、類人猿からヒトへの進化過程で、言語の段階的・飛躍的進化と利他性の漸進的進化の過程を明らかにしつつある。また、チンパンジー・ボノボ・オランウータンの類人猿間においても言語と利他性の進化過程の差異と共通性も明らかにしつつある。</p> <p>国際的な学術誌への研究成果の発信も順調であり、研究成果の公表という面でも申し分ない。</p> <p>今後本研究が一層推進することによって、言語と利他性の霊長類的基盤が更に解明されることを期待する。</p>